

巻頭言

『人間文化研究』の発刊にあたって

学長 藤澤 益夫

本学短期大学部は2002年4月、田園調布学園大学短期大学部人間文化学科としてあらたな途を進むこととなり、ここに短期大学部の研究紀要として『人間文化研究』を発刊するはこびとなった。

短期大学部の歴史は、1967年の調布学園女子短期大学の設立に遡る。調布学園女子短期大学は、学園の建学の精神である「捨我精進」の理念を実践することのできる国際的な教養を身につけた人材を育成することをめざして英語科を設置し（1976年に英語英文科に学科名称を変更し、さらに1991年に英語コミュニケーション学科に学科名称を変更した）、その研究成果をひろく世に問うために「諸学研究会」を組織して『紀要』を刊行した。

その後、1990年に日本語日本文化学科を増設し、同学科の研究紀要として『調布日本文化』を刊行するとともに、1998年には人間福祉学科を設置して『人間福祉研究』を刊行した。本学短期大学部は、このように創立以来35年の永きにわたる歴史を有し、人間教育と学術研究の両面にわたって社会に多くの貢献をなしたものと自負するところである。

そして、学園の建学の精神をさらに豊かに実現することをめざして、2002年4月、本学は人間福祉学部と短期大学部からなる田園調布学園大学としてあらたな飛躍の時を迎えるにいたった。これにともない、短期大学部においては従来の英語コミュニケーション学科と日本語日本文化学科の両学科を改組、再編成して人間文化学科を設置し、研究成果の公刊の場としてこの『人間文化研究』を発刊するにいたったのである。

人間文化学科は、その学科名称がしめしているように、言語やひろい意味での社会文化をふくむ人間文化にすぐれた洞察力をもち、そのような総合的な人知にもとづく人間力を社会に生かすことのできる人材の育成をめざすものである。この目的を実現するために、人間文化学科にはおおきく、実践英語コース、人間社会コース、日本語文化コースの三つのコースをおき、これらの各コースはカリキュラム上も、また研究上もたがいに協同し、共生して人間文化のいわば総合的な複合体を形成することを基本理念とした。

学問研究はつねに多様な事象が生起し、それらが統合されてそこからふたたびあらたな事象が展開する。それは学問研究に内在する固有の要請であるといつてよいであろう。『人間文化研究』の発刊にあたって、本紀要がこのような学内の研究、教育の発展の礎となり、またひろく関連各学界における学術研究のさらなる発展に寄与することのできる紀要へと成長することを期待する。